

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	徳田 康
論文担当者	主査 石原 正治
	副査 中込 隆之
	副査 山門 亨一郎
学位論文名	Effect of prior antiplatelet therapy on large vessel occlusion in patients
	with non-valvular atrial fibrillation newly initiated on apixaban
	(新たにアピキサバンの投与を開始した非弁膜症性心房細動患者の大血管閉塞
	に及ぼす、発症前の抗血小板薬の影響)
論文審査の結果の要旨 非弁膜症性発作性心房細動（NVAF）患者の頭蓋内主幹動脈閉塞に対しては直接型経口抗凝固薬（DOAC）が処方されるが、その際、発症前の抗血小板薬服用が出血を増加させることにより予後に影響を及ぼすことが懸念される。本研究では NVAF の塞栓症による急性虚血性脳卒中を発症し DOAC としてアピキサバンを処方される患者を対象とした RELAXED 試験のデータを用いて、発症前の抗血小板薬の 30 日予後に及ぼす影響を検討した。主要エンドポイントは発症後 30 日以内の大出血とし、副次エンドポイントは発症後 30 日以内の脳出血、虚血性イベント、脳梗塞、全死因死亡とした。対象数は 492 名であり、抗血小板剤投与群 109 名、抗血小板剤非投与群 383 名であった。発症前の抗血小板薬有無群間では、抗血小板剤群の患者が有意に高齢であり、男性の割合が有意に高く、脳心血管塞栓症の既往も多くみられた。主要エンドポイントである 30 日以内の大出血の累積発生率は抗血小板薬群で有意に高かった。抗血小板薬の継続・休薬により主要エンドポイント・副次エンドポイントに有意差を認めなかった。 本研究では、NVAF 患者による急性脳梗塞発症前の抗血小板療法は、発症後 30 日以内の大出血と有意に関連していたことが示された。 本研究の成果は NVAF 患者による急性脳梗塞発症前の抗血小板療法の予後に及ぼす影響に関して重要な知見を与えるものと判断され、学位授与に値すると評価した。	